

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108555		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	なでこの家		
所在地	秋田市金足追分字海老穴 223		
自己評価作成日	平成22年9月5日	評価結果市町村受理日	平成22年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会		
所在地	秋田市旭北栄町1-5		
訪問調査日	平成22年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族や本人の思いを大切に、普段の面会の他、様々な機会を通し家族と共に過ごせる機会を作るようにしている。また、家族同士の交流する機会も作るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅地にあり、介護相談を通じて事業所の機能を地域に還元したり、町内会活動に積極的に参加しているほか、前庭に大きなベンチを置き、利用者だけでなく、地域の方との語らいや休憩の場としても活用するなど、地域との関わりを大切にしている。
また、法人母体が医療法人であるため、病院や老人保健施設等関係機関との連携が図られており、法人の看護師が24時間体制で相談を受け付けるなど、緊急時や利用者の状態変化でもすぐに対応できる体制を整え、利用者および家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内グループホームでの共通理念の他、職員間でケアの目標となる理念を独自に考え、その理念のもと日々の実践に向けて取り組んでいる。	法人理念を基に、職員全員で検討のうえ、「地域や家族と共に支える暮らし」「自分らしさを大切にできる暮らし」「共に楽しみ、笑える暮らし」という事業所独自の理念を掲げ、地域や家族との関わりを大切にしながら、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し、清掃活動や行事等への参加をすすめている。年に1度、地域交流会を開催したり、地域向けのお便りを発行しホームの様子を伝え、事業所への理解や協力を仰いでいる。	二つの町内会に加入し、地域の清掃活動や夏祭りに積極的に参加している。 また、事業所では、毎年行事等に合わせチラシやポスターなどで地域住民を招待し、交流会と称して会食や介護相談を行なうなど交流に努めている。 さらに、近所の農業高校で栽培した野菜や花を高校生が売りに来たり、花を買いに高校まで出かけるなど交流している。	交流会の参加など地域に対して積極的に働きかけているが、地域住民の参加拡大を図るため、運営推進会議でも検討しながら、引き続き地域との交流に努めてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	お便りや地域交流会の中で、認知症に関する情報を伝えたり、相談の窓口としての役割ができるようにすすめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の活動状況の報告や評価についての説明を行い、参加者それぞれの立場からご意見をいただき、問題解決の為の取り組みや更なるサービスの向上に活かしている。	年6回開催し、利用者の状況や行事、外部評価結果等について報告、意見交換しており、災害時の地域との協力体制についても検討している。 また、委員の意見から、町内会へのたよりの内容を堅苦しくない表現で作成するなど、わかりやすい情報提供に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との直接的な連絡は法人内の担当部署で行っているが、代行機関である包括支援センターとは様々な相談や地域交流会を通して協力を仰いでいる。	生活保護受給者や権利擁護事業利用者への対応については、法人本部の相談員を通じて、福祉事務所や社会福祉協議会等と相談しながら支援している。 また、地域包括支援センターと協力しながら、事業所で介護相談会を開催するなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会により理解を深め、基本的な考え方として身体拘束はしないことを職員全体が認識している。	ヒヤリハット事例を基に拘束しないケアの重要性について、情報の共有に努めている。 また、地域包括支援センターによる徘徊ネットワークを活用したり自治会の協力を得ながら、利用者の見守り体制の整備に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会により、虐待の内容や起こりうる状況などからそのようなことが見過ごされることのないように互いに注意しあい、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加したり、様々な情報に目をむけるようにしている。必要性に応じ関係各種と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	生活相談員と共に、契約書をもとに疑問点や不安について十分に話し合い、納得、理解を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。また、いつでもご意見やご要望を伺う良い機会とし、話しやすい環境作りに配慮している。また、いただいたご意見は真摯に受け止め、職員間、関係各種で話し合い、運営に反映させるようにしている。	家族が話しやすい雰囲気を意識し、面会時や訪問時には会話の中から意向を確認したり、家族への便りに意見用紙を同封するなど、意見集約に努めている。 また、法人内事業所に寄せられた意見や苦情などを集約し、職員ミーティングを通じて全職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合ったり、いつでも自由に意見を出し合えるようにしている。	職員は、ささいな気づきでも管理者に伝えており、2階ベランダへの物干し台の設置や物の置き場の変更など、生活環境の改善につなげている。 また、毎年、法人による意識調査アンケートを実施しているほか、事業所内と法人全体ミーティングを毎月行ない、職員の意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの資格や特技などが活かせるように配慮したり、それぞれが目標を掲げ、目標達成のためのアドバイスをうけることができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加は積極的にすすめられている。また、経験に応じた研修への参加もおこなわれている。また、普段の業務の中での学びも意識して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡会を通じて情報を入手したり、研修等へ参加したりしている。また、法人内のグループホーム同士での情報交換、訪問などおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースを尊重し、さりげない声がけや話しやすい環境作りに努めている。不安や悩みを取り除く配慮や、安心を得るための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談していただけるような体制はできている。十分な話し合いが持てるようにし、納得、信頼の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する姿勢をもち、個々の持っている力を発揮していただく場面を作り、教えていただいたりしている。共に楽しみ、笑える時を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や悩みも受け止めながら、本人にとって最善の方法が得られるよう、情報交換を密にし共に支えていくための信頼関係が築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、親類や知人などとの相互訪問もいつでも気軽にできるようにしている。また、手紙や電話のやりとりの支援もしている。	利用者が住んでいた家や勤め先、思い出に残っている場所にドライブで立ち寄るなど外出時の支援に繋げている。 また、自宅に届いた手紙を家族に届けてもらい、それに対して返事を書いたり、兄弟や娘に居室で電話をかけるなど、家族の協力を得ながら馴染みの関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な場面で馴染みの関係が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも気軽に相談をしていただけるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望をいつでも話せるような環境に配慮し、さりげなく尋ねたりしている。また、本人にとって必要とされる最善のケアの提供に努めている。	利用者の生活歴を基に、日々の関わりから思いや希望を把握するよう努め、就寝前のリラックスした時間帯に会話するなどして意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、今までの生活の様子や人間関係など、入居時や折に触れ、本人や家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の状況を見極めたうえでの身体面、精神面の変化やその日の新たな発見などの情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、カンファレンスなどの情報をもとに担当者が中心となって計画作成者と共に作成している。日ごろの気付きや思いを大切に、家族や関係職種との情報交換により要望を反映させた内容としている。	毎日の申し送りや週1回のケアカンファレンス、月1回のミニカンファレンスで、課題やニーズを職員が共有し、利用者の担当者がケア目標を立て、介護計画作成担当者が、利用者の好みや希望に合わせて具体的な介護計画を作成している。 また、前回課題としていた介護計画書の記載については、計画目標、期間、担当者について一体的に記入できるように工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録や、関わりの中での気づきをミーティングや申し送りによって情報を共有し、統一したケアの提供に努めている。また、カンファレンスで介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校、文化施設の訪問や、地域のボランティアの訪問による歌の会やお茶会などを開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、今までかかっていた医療機関や緊急時の搬送先について伺っている。その上で希望を大切に利用の支援をしている。新たな法人内の受診を進める際は前もって了解を得るようにしている。	母体が医療法人のため、利用者の多くがかかりつけ医になっているが、希望により、他のかかりつけ医への受診も可能としている。 また、定期受診はスムーズで、法人内の看護師が24時間体制で相談を受付けており、緊急時の体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろから法人内の担当看護師と連携をはかり、相談や受診のアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当相談員や看護師を介して行っている。また、いつでも相談していただけるような環境、体制に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にも話し合っているが、状況の変化に伴いその都度、家族職員間で話し合ったり、生活相談員を介して、家族医師との話し合いの場を提供し事業所の持つ特性を活かした支援をしている。	原則的に事業所での看取りは行なわず、医師の判断に基づき、できる限り事業所で対応することを方針として家族に説明している。 なお、状態の急変や重度化に伴い、事業所での対応が困難な場合は、適切な治療が受けられるよう病院や施設への入所を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに添って行っている。不定期ではあるが救命救急の講習会への参加や開催も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設施設との防災訓練を実施している。また、避難方法のマニュアル化や個別の誘導法についても明確にしている。近隣への協力体制については運営推進会議で常に話し合っている。	年2回、隣接している障害者の支援ハウスと連携し、消防署立会いのもと夜間も想定しながら避難訓練を行っているほか、避難マニュアルの整備や非常食を備蓄するなど万一案の場合に備えている。 また、前回課題となっている2階からの避難方法については、消防の指導に従いペランダへ避難することとしている。	事業所が住宅地にあるため、近隣住民の協力を得ながら、より安全な避難・誘導方法を模索してほしい。 そのため、避難訓練への住民参加について、運営推進会議で引き続き検討してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の持つ力や意味を常に考え、言葉遣いや対応時の姿勢など一人ひとりに合わせた対応に心がけている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、利用者との関係などから、言葉遣いや話し方を使い分け、トイレ誘導の際も「トイレ」との表現はせず、プライバシーに配慮しながら支援している。	個人情報ファイルを共有スペースに置いて管理しているため、利用者や訪問客の目に触れる可能性もあることから、取扱いについて検討してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも自分の思いを伝えることが出来る話やすい環境作りに心がけている。また茶話会時で飲み物を選んでいただいたり、食事会のメニューや外出レクの行き先などの相談もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重しながら無理のないペースで過ごせるよう支援している。受診などの時にはあらかじめ本人に伝え理解していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	自ら洋服を選んだり、お化粧品などで身だしなみを整えている。また、一緒に準備をすることでおしゃれの会話を楽しんだり本人の希望を伺う機会にもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた食事形態やおいしく食べやすい食事の提供に努めている。一緒に作業することで得意とすることを発揮していただいたり、食卓を囲んで自由な会話を楽しみながら食事をしている。	献立は法人所属の栄養士が作成しているが、月に1回、利用者の要望を踏まえて法人内で食事提供方法を検討し、利用者の状況に合わせて、減塩、刻み、お粥等で対応している。 また、正月などの行事の際は自由献立とし、外食や出前をとるなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その都度、食事量、水分量を記録し、不足と思われる時は随時声がけし水分補給をしていただいている。体調により食事が十分に摂れない時は補食の提供や、必要に応じて栄養士等に相談し個々の状態に合わせた食事提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声がけをし、口腔内の清潔を保つよう支援している。一人ひとりのレベルや口腔内の状態に合わせ、必要な方には手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげない声かけによるトイレへの誘いや、わかりやすいトイレの表示に努めている。個々の排泄パターンの把握に努め、排泄に関して困っていることがあれば泌尿器科などの受診も支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、誘導時は「トイレ」との表現をしないなど、周囲への配慮や自尊心を損なわないよう支援している。 また、就寝時にリハビリパンツを使用する方でも、日中は布パンツを使用しトイレでの排泄を促しており、法人内の泌尿器科とも相談のうえ排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンの把握に努めている。一緒に軽体操をしたり、生活の中で無理なく体を動かす機会を作るようにしている。便通を整えるような食材や飲み物の提供を心がけ、朝食時にはカスピ海ヨーグルトを食べていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を尊重しながら、健康状態を確認したうえで個別に対応している。また、入浴できない時は清拭や足浴などをしていただいている。	入浴は基本的に火曜日と木曜日以外の午後とし、夕食までの時間帯であれば、いつでも入浴でき、利用者が互いに誘い合うなど入浴を楽しんでいる。 また、健康状態に応じて清拭や足湯にするなど清潔に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内での基本的な生活パターンはあるものの、本人の習慣や希望を優先し気持ちのよい安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記録し、目的、副作用について把握するよう努めている。また、確実に内服できるよう個別に支援している。病状変化時は速やかに医師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や過去の仕事や習慣を大切に、本人の得意とすることを活かしながら役割を持つことで自信に繋げるような支援をしている。また、趣味や好きな娯楽などを楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	近隣への散歩、近所の店での買い物や、家族と一緒に外出、外泊などの機会を得ている。また、レクリエーションの一環として季節ごとに公園や文化施設を訪れたり、馴染みのある場所への外出を支援している。	利用者の希望を踏まえ、毎月の外出レクリエーションを実施しており、車イス利用者もともに外出できるよう法人所有の福祉車輛を使用するなど、外出を楽しめるよう支援している。 また、天気の良い日には、近所へ散歩したり、事業所の前にテーブルを置いて、お茶を飲み、夕涼みをするなど楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことでの安心感を理解するとともに、近所での買い物支援や、買い物レクなどを通して希望のものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけていただける環境作りや、近くのポストに案内したり、日ごろから自由に自分の意思を伝えることができる関係作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や観葉植物を配したり、自分達で作った装飾を飾ったりしている。消臭芳香剤などを効果的に使用し不快な臭いの無いようにし、居心地の良い生活空間の提供に心がけている。また、生活音にも不快にならないように配慮している。	転倒した場合に備え、床には衝撃をやわらげるフローリングを使用し畳のスペースも配置して利用者にやさしい環境を整えている。 また、観葉植物や花を置いて、季節感を演出しているほか、利用者が作成した貼り絵を飾るなど、居心地のよい共用空間づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</p>	<p>1階にはリビングテーブル、ソファ、畳の部屋、2階にもテーブルセットを配し、馴染みの場所、人とのかかわりを大切にしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際は、本人、家族と相談しながら馴染みの家具や寝具、使い慣れた物などをおくことで安心して居心地よく過ごせる居室作りをお手伝いしている。</p>	<p>家族や飼い猫の写真を飾ったり、テレビを置くなど、利用者の好みに応じた居室となっており、身だしなみを気にする方には鏡をプレゼントするなど、家族に相談しながら一人ひとりに合わせた居室づくりを支援している。 また、夏場には、空気の循環に気を配り、居室の入り口のれんを下げプライバシーにも配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>さりげない表示や、随所に設けられた手すり、車椅子でも対応できるトイレや洗面所、2階へも自由に行き来できるようにエレベーターも設置されている。</p>		